



## I 新センター長ご挨拶

この四月からセンター長に就任しました和田直也です。極東地域研究センターは、1958年に経済学部内に設置された「北陸経済研究所」に源を発し、その43年後にあたる2001年に学内共同教育研究施設として省令により誕生しました。これまでの歴代のセンター長は、丹羽昇先生、古田俊吉先生、川田邦夫先生、今村弘子先生、そして前任者の堀江典生先生です。これまでセンター長として活躍されてきた諸先輩を見習いながら、極東地域研究センターの益々の発展のために、力を尽くして行きたいと思っております。至らない点多々あるとは思いますが、北東アジアを中心とした地域研究推進のため、皆様のご理解とご協力を賜りたく、何卒よろしくお願い致します。

このニュースレターを手に取り目を通して頂いている読者の皆様は、レターヘッドのデザインが変わったことにお気づきでしょうか？ そうなのです、当センターのロゴマークが新しく生まれ変わりました。菱形のシンボルマークは、日本海の形を模したデザインとなっており、これは当センターが環日本海地域の国々を対象としていることを表しています。そして、豊かな日本海を「ブルー」、雄大な自然を「グリーン」、未来への希望の光を「イエロー」に見立て、それらが融和されて地域が発展することを表現しています。さらに、小さな菱形は、地域を構成する一人一人を意味し、個人の幸せと発展への願いが込められています。

極東地域研究センターは、1) 経済、2) 社会、3) 環境、の各視点・各分野を融合させ、すなわち、複数の専門分野から得られた知見を重ね合わせて、対象とする「地域」という空間を理解するという、学際的 (multidisciplinary) な研究を行うことを一つの目的としております。センターの構成員の一人として、この学際的な研究に取り組んできましたが、これはまさしく言易行難であることを肌で感じてきました。当センターが設立されてから、今年度で18年目を迎えました。言わば、成人に達した当センターが、これまでの経験を活かし、学際的な研究を国内外に発信できるステージに突入したとも言えるかもしれません。新しいロゴマークに込められた思いを胸に、研究者の個性や個々の強みを活かし、それらを調和的に融合した研究を、教職員が一丸となって、これから発信して行きたいと思っております。ご興味を持たれた皆様も、どうか私たちの輪に加わって頂き、一緒に地域研究を進めて行きませんか？ 共同研究の扉は当センターではいつでも開いております。どうぞよろしくお申し上げます。

(文責：和田 直也)

## II 研究紹介 (馬欣欣准教授)

私は、中国では内科医師として勤めていました。言うまでもなく、人間の体を診る医者も大切な仕事です。しかし、いつしか私は「社会の医者」になればもっと大きな社会貢献ができるという信念を抱くようになり、2000年、日本に留学し、経済学を学ぶことを決意しました。あれから約20年の歳月が経ちました。慶應義塾大学大学院商学研究科で博士学位を取得し、財務省財務総合政策研究所、慶應義塾大学産業研究所の研究員、そして京都大学助教・講師、一橋大学経済研究所准教授を経て、今年4月1日に極東地域研究センター准教授として着任しました。

東京で長く暮らし、北陸地方での生活は初めてですが、赴任する前に、前職場の同僚達から富山は自然風景が綺麗で、海鮮料理がおいしいところと聞きました。着任後、五福公園で綺麗な夜桜を鑑賞し、不安な心が癒されました。極東地域研究センターの皆様にご温かく迎えていただきました。とても良い同僚達に出会って、すばらしい研究環境に恵まれて幸運だと思います。

私の専門は中国経済論・労働経済学・開発経済学です。慶應義塾大学日本家計所得調査 (KHPS、JHPS) および中国家計所得調査プロジェクト (CHIPS) のメンバーとしてマイクロデータの調査に参加し、中国と日本における所得格差及び社会保障に関する実証研究を行ってきました。最近、体制移行と中国労働市場構造に関する英文書籍 *Economic Transition and Labor Market Reform in China* (9章 303頁) を Palgrave Macmillan から出版しました。また、中国社会科学院、北京師範大学、復旦大学などの中国研究機関に連携し、日中学術交流活動を推進しています。4月下旬、中国名門大学である復旦大学、浙江大学に訪問し、国際シンポジウムで社会保障制度の日中比較について講演を行いました。



写真1. 中国研究機関との連携

今後、これまで蓄積された知識及び経験を生かして、富山大学で中国を含むアジア経済に関する研究および教育に全力を尽くして取り込みたいと思っております。

(文責：馬欣欣)

### III 研究紹介 (福田勝文研究員)

2019年4月より極東地域研究センターに研究員として着任しました福田勝文と申します。4月より、環境省の研究プロジェクト「環境経済の政策研究」に取り組んでいます。研究プロジェクト長の山本雅資教授と経済学部の中村和之教授の御指導御鞭撻を賜りプロジェクトに邁進中です。今後は産業連関表による推定を行う予定です。

さて、私の専門は国際貿易論であり、大学院生の頃より貿易自由化が経済成長や地域間所得格差に与える影響に関する理論研究を行ってきました。私が小さいときの日本経済はバブル経済でしたが、それ以降「失われた長い年月」を経験しています。同時に、諸外国との経済取引が盛んに行われ、より活発化しています。これらのことより、グローバル経済において一国が高い経済成長を経験するためにどのようなものが要因であるのかについて関心を持って参りました。私の今までの研究を挙げますと、スイスなどの相対的に人口の少ない国々で基礎研究に対する支出割合が高く、逆に人口の多い国々では基礎研究に対する支出割合が低いことが知られています。そこで、政府などによる基礎研究と利潤最大化を追求している私的企業が行う応用研究の役割の違いと企業の異質性を考慮し、貿易自由化が経済成長率に与える影響を分析しました。人口水準が高いかもしくは低いかによって成長率や厚生に与える影響が異なることを示したこの理論研究は *Journal of Macroeconomics* に今年発行予定です。

ここ2年ほどは前職の広島大学大学院国際協力研究科の先生方と大学院生と大地震や洪水などの自然災害や他国の経済制裁などが国際貿易の変化(例えば貿易量の短期的な大変動)を通じて一国経済の厚生にどの程度の短期的な影響を与えるのかについて大学院生の出身国の様々な貿易データを用いて推定する研究を行ってきました。現在、これらの研究を論文にまとめてインパクトファクター付き海外英文雑誌に投稿する準備をしています。

前職場の広島大学大学院国際協力研究科では様々な分野の先生方がおられ、特に私の関係する分野では経済学と工学系の先生が上手に共同研究を行っておられる場面を多く拝見しました。先生方を見習って私も研究成果を少しでも出していこうと刺激を大いに受けました。

当センターでは文理融合の観点から極東地域に関する様々な研究が行われています。極東地域研究センターの先生方から今まで扱ったことのない国の研究に関するアイデアや研究発表内容に関して有意義なコメントを通して御指導御鞭撻を賜り、既に多くの刺激を頂いています。任期中にできる限り、環境省の研究プロジェクトや国際貿易の研究に貢献し

ていきたいと存じ上げます。どうぞ宜しく御願い申し上げます。

(文責：福田勝文)

### IV 研究紹介 (Shishir Sharmin 研究員)

私はバングラデシュ出身の Shishir Sharmin です。2019年4月から博士研究員として極東地域研究センターに加わりました。今後は、プロジェクト関連の仕事「中国とロシアの国境への農地の拡大とその経済成長への影響」等に取り組みます。私の専門は、森林/植生のモニタリング、リモートセンシング、GIS、土地利用の変化、種の分布のモデル化などです。これまで、衛星画像を使用した都市成長による土地利用の変化の検出に関する実証研究を行いました(図1)。

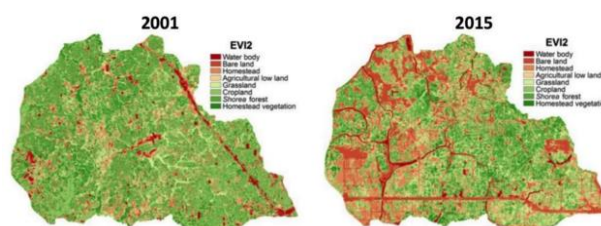


図1. IKONOS と WV2 の画像に基づく植生指数を用いた土地利用の変化 (Shishir and Tsuyuzaki (2018): <https://doi.org/10.1007/s10661-018-6714-3>).

私が土地利用の変化に焦点を当てたのは、それが世界の多くの国で懸念されている問題だからです。バングラデシュでは、都市の成長は一般的な現象であり、生態系に対する脅威となっています。私は首都ダッカの隣接地域で育ちましたが、その時農村部と都市部の風景を目にしました。そして、生態系のバランスを維持するために環境がいかにそしてなぜ重要であるかを理解しました。しかし、人々の需要の継続的な増加のために、都市の拡大が必要となり、その結果隣接する農村地帯を飲み込み、新しい町が作られ始めました。ご存じのとおり、都市の成長は土地利用に変化をもたらし、生態系に影響を与えます。私は都市の成長が土地利用、特に森林被覆に与える影響に焦点を当て、保全森林区 (*Shorea robusta*) を含む様々な生態学的に重要な土地利用タイプの変化と減少を明らかにしました。また、地球温暖化シナリオの文脈における種の潜在的分布の予測は、私の研究の際立った特徴の1つです。持続可能な環境を理解し、これを達成するためには、生態系のバランスが必要です。私たちは、生態学的に重要な生態系を保全し回復させる必要があります。

私は、この研究手法を極東地域研究センターにおいて活用したいと思います。これからは、新たに始めた研究を推進して、そして研究をさらに発展させることに貢献したいと思います。ありがとうございました。

(文責：Shishir Sharmin)

(和訳：和田 直也)